

季節の縁起飾り

これまで紹介した作品は単品で飾ることもできますが、背景を整えたり、組み合わせることで、さらに縁起のよい季節の飾りができあがります。

(飾り方については90ページから)

鯛のお正月飾り・海老のお正月飾り

新しい年のはじまりを祝う行事としておなじみのお正月は、本来は農作をもたらすとされる歳神様をお迎えするお祭りでした。しめ縄や門松、鏡餅など、さまざまなお正月のアイテムも、本来は歳神様を歓迎するためのものです。



鯛

「めでたい」の語呂合わせでおなじみの餃。美しい姿や色から、お祝いの席では尾頭つきの餃が食べられてきました。特に関西では、お正月のごちそうとして欠かせません。

松 竹 梅

常緑樹で常に青々と繁っている松は、よいことが続くことをあらわし、樹齢の長さから「長寿」の意味合いを持っています。まっすぐに伸びてしなやかで折れにくい竹は、成長の早い姿から縁起がよいとされています。梅は、春一番に咲くところや、よい香り、めでたい紅白の花の色から大切にされています。

十二支飾り

古代の中国で、方角や時刻を示すために用いられていた十二支は、次第に、月日や年をあらわすためにも使われるようになりました。十二支それぞれに動物をあて、その年の縁起物とする習わしがあります。



卯の干支飾り



辰の干支飾り

